

道徳の時間で活用する ～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

岩国市立玖珂小学校 森本 理江

1 本場面におけるポイント

- 地域の祭りの様子を書き込み、地域への関心・興味を高める。
- 1学期に生活科の学習で書き込んだところと合わせて、地域との関わりについて考える一助とする。
- 学習後、友達と新聞を読み合っ活動振り返り、自分たちの郷土のよさやふるさとを大切にしている人々の思い、自分自身の今後の課題につなげる。

2 授業の実際

1 題材名 「どうぶつ森のおまつり」(出典 文溪堂 2年生の道徳)

2 ねらい

郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもとうとする心情を養う。

3 展開

(1) 導入 地域の祭りについて話し合い、「私たちの道徳」に書き込む。

- 地域の祭りの写真を見せたり音を聞かせたりする。
「この前あった鞍掛城祭りの写真だ。」
「ぼくの班長さんがマーチングで歩いていたよ。」
「近所のおじさんがお店を出していたよ。」
- どんなお祭りか、「私たちの道徳」に書いて紹介しよう。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

校長先生が仮装して出た大名行列や5・6年児童によるマーチング・バトンクラブの様子を写真で見せることで、興味・関心を高めるとともに、ねらいとする価値への方向付けを図る。

身近な祭りなので、「私たちの道徳」P.152の上段に、どのような祭りなのかを書き込むようにする。



(2) 展開 「どうぶつ森のおまつり」を読んで、話し合う。

- モグラ兄弟の気持ちを考える。
「楽しみ。」 「早くこないかな。」
「みんな何しているんだろう。」
- お祭りに向けて準備をしているきつね・りす・くま・たぬきの思いを考える。
「たのしいおまつりにしたいな。」 「たくさんとるぞ。」



「みんなのためにがんばろう。」

- もぐら兄弟が、町の人の様子を見てどんなふうに思い、どんなふうに声をかけるかを考える。

「みんながんばっているね。」「ありがとう。」

「ぼくたちにもできることはないかな。」

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

場面絵を提示し、どうぶつ森での祭りの様子を理解しやすいようにして、範読する。ワークシートに記入し、役割演技も取り入れることで、お祭りに行く側と準備する側の気持ちを考え、板書もその動きに合わせて書き込んでいく。もぐら兄弟の気持ちの変化など、もぐら兄弟への共感を深められるようにする。

(3) 終末 自分たちにできることについて考える。

- もぐら兄弟はどんなふうにお祭りに行くか考える。

「すごく楽しむ。」「お手伝いをする。」

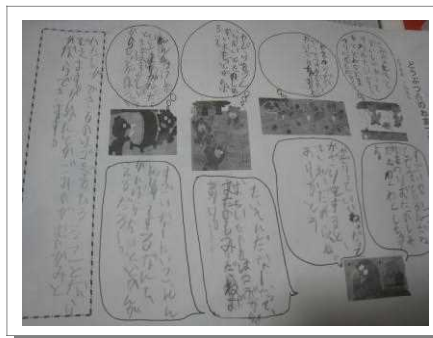
- 地域の祭りの様子を思い出し、自分たちにできることも考える。

ワークシートへの記入

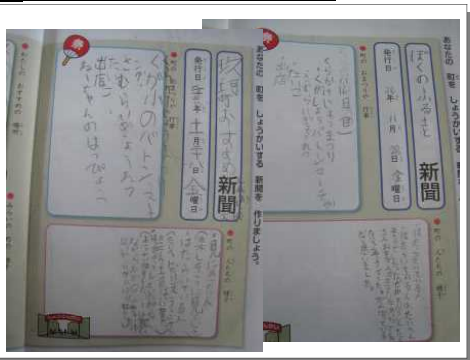
- 町の新聞の仕上げをする。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

お祭りに向けて動物たちがみんな頑張っている様子は、地域の祭りにも通じることに気付かせる。「私たちの道徳」P.152を仕上げ、1学期に生活科の学習で書いているP.153と合わせて郷土を紹介する新聞を仕上げ、友達と読み合って思いを共有できるようにする。



3 実践を振り返って



どうぶつ森だけでなく、実際に子どもたちが楽しみにしている地域の祭りを成功させるために、たくさんの町の人々が関わり、みんなで成功させようと頑張っていることに気付くことができた。そこからただ楽しむだけではなく、周りの人に迷惑をかけることやゴミを捨てること、頑張って練習して参加することなど、自分たちも協力することやできることがあることに気がつく児童が多くみられた。

また、町の新報作りで、自分の郷土への気付きをまとめ、友達と新聞を読み合ったり比べたりすることで、郷土のよさやふるさとを大切にしたいという思いを再認識できた。さらに、未来に向けての夢へと思いを膨らませることができたように感じる。